

■九州朝日放送番組審議会議事概要（6月分）

第574回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成27年6月8日（月） 午後3時30分～5時
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	<p>委員総数 8名 出席委員数 8名</p> <p><b>（出席委員）</b> 光富彰委員長、宇加治恭子副委員長 藤田ひろみ委員、古宮洋二委員 宮田克彦委員、三好宗子委員 松村茂雄委員、宇佐見昇委員</p> <p><b>（放送事業者側出席者名）</b> 代表取締役社長 武内健二 常務取締役編成制作局長 半田俊彦 取締役ラジオ局長 清水透 報道局長 佐伯拓史 報道局次長兼報道部長 松延健次 報道部 野村友弘 報道部 荒木愛子、有森崇裕 視聴者・広報室長兼審議事務局長 久芳康治 事務局員 古賀香織、松田泰久</p>
議 題	<p>KBC戦後70年特別番組 「ミャンマーのゼロファイター～70年後の日本兵遺骨調査～」 &lt;放送日&gt; 2015年5月29日（金）午前10時40分～11時35分</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訂正放送について</li> <li>2. 平成27年6・7月ラジオ・テレビ番組編成状況</li> <li>3. 平成27年5月視聴者・聴取者応答状況等の報告</li> <li>4. その他</li> </ol>
議事の概要	<p>◎委員の意見の概要</p> <p>委員からは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○福岡県出身で現地の少数民族と政府との内戦を終結させ、日本兵の遺骨収集にあたる僧侶の存在に驚き、感銘を受けた。</li> <li>○ストーリーが良く組み立てられ、見応えのある良質の番組であった。</li> <li>○ドキュメンタリー番組におけるナレーションは重要だが、落ち着いた声で良かった。</li> <li>○新婚間もなく、夫を戦地に送った98歳の女性と子息、現地で戦った91歳の男性への取材が良く出来ていた。</li> <li>○戦後70年を経ても、いつまでも消えない遺族の思い、関係者の複雑な感情が良く表現されていた。</li> <li>○井本さんの活動を支えるご家族のつながりが良かった。</li> <li>○ラストでの現地で咲く桜の木のカットが良かった。</li> </ul> <p style="text-align: right;">などの評価を頂きました。</p> <p>また、気になる点や望むこととしては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○冒頭で南太平洋やシベリアなどの他の地域を含めた遺骨収集の現状や全体像の説明があれば、ミャンマーでの遺骨収集の位置づけがよりわかりやすくなったのでは。</li> <li>○井本氏の現地での、また国内では行政を相手にしてのこれまでの苦労が今ひとつ表現できていないのでは。</li> <li>○インパール作戦と福岡、佐賀との関わりについてもっと知りたかった。</li> <li>○今後も継続取材はおこなうのでしょうか。</li> <li>○現地で戦った方々や遺族への取材は難しかったのではないかと。</li> </ul> <p style="text-align: right;">などの批評や提言を頂きました。</p> <p>これらに対して、担当者から、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ミャンマーの内戦を停戦に導いた福岡県出身の僧侶を取材したいとの担当ディレクターからの申し出が番組化へのきっかけとなったが、当初はまだ遺骨収集に結びつく情報はなかった。</li> <li>○この地域での戦闘には久留米の菊兵团が参加しており、戦後70年にあたり、KBCが番組化する必然性があったと考えている。</li> <li>○現地で戦った91歳の男性への取材は難しかったが、井本さんの「戦後80年はない」との言葉で説得した。</li> <li>○11月に予定されている厚労省の調査団による遺骨採掘収集に同行するなど、今後も取材を継続させていきたい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">などの説明を行いました。</p>